

セブンイレブン物語(前編)

セブンイレブン・・・殆どの方はこれを耳にされると著名なコンビニを連想されると察するが、フライフィッシャーの中にはもう一つ連想されるものがあると思っただい。

7.11・・・しかもは7月11日(7月11日)・・・

この釣りで最も標準的な8フィートよりインチ短いこの微妙な長さで『セブンイレブン』と言う語呂の響きが何とも言えない。

おそらく8フィートと比べても大差ないとは考えるが、この微妙な長さに隠された何某かがとつともなく大きな意味合いを持つ様な気がしてならない・・・これも察するに【セブン】と【イレブン】と言う組み合わせによる相乗効果が果たした連想作用であろう。

私も漏れなく・・・この説明できない連想作用の虜となってしまった。

この釣りを始めて一段落した頃、とても気になるロッドが頭中を駆け巡っていた。

もう、欲しくて欲しくてたまらない・・・このロッドはそれまで手にした国産物とは比べ様もなく破格で、結婚が決まったこともあり、そう簡単には購入に踏み切れなかった。

オービス・・・セブンイレブン・・・#4

このロッドに憧れを抱いた方も少なくはないだろう・・・ところが、結婚して子供も生まれた頃、ちゃっとしたことで泡銭が舞い込んだ。このなる欲しくて欲しくてたまらなかったロッドが射程距離に入り、ソワソワしている自分が居る。

しかし、下手すると当時一ヶ月分の生活費に匹敵する様なフライロッドをロクビーピーヤリ繰りしている家内に内緒で購入するには踏み切れな・・・と思ひ込んでいた時・・・

「そんなに欲しけりゃ、買おうたらエエやん」どうせ降って湧いたお金やし・・・マంతが何時までも持ってたって消えてなくなるに決ってるし・・・そしてもうすぐ長女が1歳になろうとする十一月・・・晴れて憧れのロッドを手にすることができた。

もはや気分は溪流新緑シーズンのドライフライの釣りが頭の中を駆け巡るも、そこまで大切に温存して置く様な出来た釣り人ではなく、当然近郊の管理釣り場に持ち込んで振ってみたくなる。

即刻余った金に切り詰めた小遣いを追加し、ロッドに装着して何とか均衡が保てると見受けた「見栄え重視のルール」を奮発！

その週末・・・土曜の早朝に有頂天で釣り場に出向いた。



到着すると、休憩する為のテーブルと小椅子を川岸に持ち出し、続いて常用ロッドにお初のセブンスレブンを奮発したリールを持ち出す・・・最初は当然セブンスレブンのリールを取り付けてライトケイヒルを結んで投じて見た。

この時の興奮はその後幾多のタックルを手にする事になるも、未だに超えたことのない感覚としてしっかり脳裏に焼き付いている。

当然、近郊の管理釣り場でライトケイヒルに飛びついてくる魚は皆無であったが、このロッドはドライフライで釣らなければ意味がないと考えていて、已む無くリールを取り外してロッドはテーブルの脇に置き、常用ロッドにリールを装着してその日の釣りを楽しんだ。

そろそろ日没が近づいた夕方・・・釣人もまぼろしになった為、川岸に持ち出したテーブルと小椅子・・・そして素振りを楽しんだセブンスレブンを立て掛けたまま、魚影を求めてさらさらと釣り場をウロツキながら釣っていた。

「(キムキム) 今日もおしまいやあ・・・」
リールを巻いてテーブルと小椅子を広げた場所に戻り、タバコに火をつけて帰る準備を始めるようになった。



帰路に着くとは想像すらできず、
乱れて溜息が突いて出た。

まずは、大事な大事なセブンスレブンを・・・そう思って立て掛けたところを見た瞬間・・・

(あれ?・・・あれ?・・・エッ?)

「なんでないねん?・・・エッ!・・・なんで?」

慌てて血眼になり辺りを搜索するも見当たらない・・・その内、無意識に釣り場を駆け巡り、イブニングの釣りを楽しまれている釣り人が手にされたロッドや足元の荷物を血眼になってチェックしていた。

(あらへん・・・なんでや?)

「誰じゃー盗んだん!」

どうしようもない腹立たしさと口惜しさが湧いて出て、テーブルと小椅子を片付けて着替えた後も河原や藪を隈なく探しながら、引き上げていく釣り人の手荷物をそれとなくチェックする。

やがて最後の釣り人が引き上げて辺りは闇に包まれた。

やっとのことで手に入れたセブンスレブンを・・・

この日の午前・・・ひと時の素振りが幸福のピークで、日没に奈落の底に落とされて、ハンドルを握る手も怒りを隠せず呼吸も

翌朝、性懲りもなく夜明けとともに釣り場に到着し、釣り場を隈なく探しながらポツリポツリと訪れてくる釣り人の手荷物をそれとなくチェックする。

いつもなら、同じ趣味を嗜む【お仲間】だが、この日だけは全員が盗賊に見える。

やがて陽が昇りはじめて釣り場を管理される漁協の関係者が来られたので、昨日の顛末を伝え・・・微かな期待をもって矢せ物ロッドが届いていなかを確認した。

当然、届いている訳がない。

「用心せんからや！・・・盗み釣りする奴も居るなかい！・・・(笑) 捕る奴も居るやろー」

漁労長のこの一言がこの顛末の締めくくりとなってしまった。

翌週末にショップに向いて相談・・・

「折ったりしたら別やけどお・・・影も形もないんやろ・・・ケースと袋だけじゃアカンでえろ・・・言うては見るけど・・・」

購入時に自動的に付帯される保険は盗難が適用外なのは百も承知である。しかし、ダメ元でも一度は手にした証として主張だけはして見たかった。

「この前、買おうとした竿・・・捕られた・・・」

「はあ？・・・何時うろ？」

「先週・・・」

「なんや？新し竿で楽しんでったんちゃうん？」

「ちやうちやう・・・探してったんやー！」

さすがに家内もこれ以上は深く立ち入らず、いつもの様に茶化すのも控えて、他の話題を切り出した。

それから暫くは気分もスッキリしなかった。



(絶対、買い直したる・・・諦めきれない欲求に支配されていたのも事実である。)

主を失った布袋とロッドチューブを目にするだけでも腹立たしく、一から再購入するつもりでさっさとゴミの日に投棄し、もう一度この竿に憧れる段階まで自分の気分を無理から戻して忘れ様とした。

そして年の瀬を迎える頃、漸く一歳を迎えた長女と積み木遊びをしていると、テレビのニュースで誘拐事件が報道されていた。

誘拐されたのは二歳に満たない幼女・・・目の

前で遊ぶ愛娘と同じ様な年頃である。

誘拐されるなぐ、この子の親に何とも不用心である事の怒りが湧く反面未だ見つかからない我が子と思うこの親の気持ちの痛む程、伝わってきた。確かに、我が身に降りかかることも限らない事件である。

ぞろぞろ・・・

(もしかしたら、あの竿が身代わりになったんかもなあ?)

・・・と言っ想いが脳裏を過り、目の前で無邪気に遊ぶ娘がこの様な事件に巻き込まれていない事が不幸中の幸いに思えてきた。

そして腹立たしい盗人への怒りに代わって、我が不用心を素直に反省し、もしや我娘に降りかかったかもしれない災難の犠牲代償となったあの竿に済まない気持ちと感謝が湧いて、漸く自分が更新された様な気になった。

きっと、あの少女の親は今も我が子の帰りを待ち続けているだろう・・・

少女が直前まで使用していた身の回りの品々もそのまま・・・

そう思うと(絶対、買い直したるー)と言っ想いが音を立てて崩れ去り、あの竿の納まりところであった布袋とロッドチューブを軽々しく投棄したことを悔やんだ。

やっこのことで手に入れたセブンイレブン・・・

それがちょっとした不用心で誘拐されてしまった・・・

この戒めとして・・・

私はあの竿が無事に手元に戻ってくる事を願い、待たねばならない。

買い直すなど止めよう・・・必ずあの竿は戻ってくる。

そう願って・・・待つことにした。

そして・・・待つ・・・と決めたらあの竿を越えると思われるロッドを手にするにも許せるものではなかった。

誘拐されたセブンイレブン・・・

「アイツは必ず戻ってくる。・・・何時までも待つてゐなかい!・・・それまではアイツよりエエ竿使われへんしー」

そんなヘンコツな想いが災いし、海外メーカー品に無理から目をつぶり、これまで通りの国産ロッドに無理やり目を向けたフライフィッシングが人生を歩むアイツになる。

あとがき

戻るハズのないロッドを何時までも待つと決めたヘンコツな想いも、最初は災いにも思えたが、今となっては幸いである。

もし、この様な事件に遭遇しなかったら・・・
もし、この様な想いに至らなかつたら・・・

恐らくこのセブンイレブンを皮切りに海外メーカー品に目が行って・・・
これらのロッドを使用したフライフィッシング人生を歩むことになっただろう・・・

これはこれで、また趣も異なったかもしれない。

そして今・・・

誘拐された竿娘は、未だ私のところに戻って来てはいない。

今頃アイツは何処でどうしているだろう??

とくにロッド生命を終えただろうか?

それとも私の不用心から放浪が始まり・・・

中古市場を転々としながら時を過しているのだろうか?

あの時二歳に満たなかった長女も既に成人してしまった。

あれから二十年・・・

何所かで未だフライロッドとして・・・

何方かに可愛がられていてほしいと願う。

20009年 晩秋

後編につづく

